



20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしや
わびぬればいまはたおなじになにわなる わびぬれば今はた同じ難波なる	難波瀉短き蘆のふしの間も なにわがたみじかきあしのふしのまも	住の江の岸に寄る波よるさへや すみのえのきしによるなみよるさえや	ちはやぶるかみよもきかずたつたがわ ちはやぶる神代も聞かず竜田川	立ち別れいなばの山の峰に生ふる たちわかれないなばのやまのみねにおうる	君がため春の野に出でて若菜つむ きみがためはるののいいでてわかたつむ	陸奥のしのぶもぢずり誰ゆるゑに みちのくのしのぶもぢずりたれゆゑに	筑波嶺のみねより落つるみなのがわ つくばねのみねよりおつるみなのがわ	天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ あまつかぜくものかよいじふきとじよ	わたのはらやそしまかけてこぎいでぬと わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと	ばんごう	上の句 かみく	下 しもく	作者 さくしや
みをつくしても逢はむとぞ思ふ	逢はでこの世を過ぐしてよとや あわでこのよをすぐしてよとや	夢の通ひ路人目よくらむ ゆめのかよいじひとめよくらん	からくれなゐに水くくるとは ゆめのかよいじひとめよくらん	まつとしきかばいまかえりこん まつとしきかばいまかえりこん	わが衣手に雪は降りつつ わがころもでにゆきはふりつつ	乱れそめにし我ならなくに みだれそめにしわれならなくに	恋ぞつもりて淵となりぬる こいぞつもりてふちとなりぬる	乙女の姿しばしとどめむ おとめのすがたしばしとどめん	人には告げよあまのつりぶね 人には告げよあまのつり舟	ばんごう	下 しもく	作者 さくしや	
元良親王 もとよししんのう	伊勢 いせ	藤原敏行朝臣 ふじわらのとしゆきあそん	在原業平朝臣 ありわらのなりひらあそん	中納言行平 ちゅうなごんゆきひら	光孝天皇 こうこうてんのう	河原左大臣 かわらのさだいじん	陽成院 ようぜいのいん	僧正遍照 そうじょうへんじょう	参議篁 さんぎたかむら	ばんごう	下 しもく	作者 さくしや	